

環境学習 2025 年 7 月度 E05:SDGs 取り組みの概要と目標1の学習

(国連広報センター『前文』、外務省『JAPAN SDGs Action Platform』、内閣官房外務省『自発的国家レビュー(VNR) 2021年6月を』を元に作成)

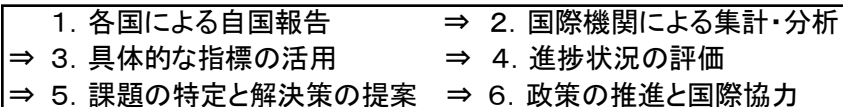
会員 K.T.

SDGs前文の具体的なターゲットは当然、それぞれ国情が違うことから一律に対処できるものではない。そこで、SDGs2030アジェンダ前文55では、各々の国情に合わせて、使うよう、次のように定めている。

「前文55: 持続可能な開発目標(SDGs)とターゲットは、各国の置かれたそれぞれの現状、能力、発展段階、政策や優先順位を踏まえつつ、一体のもので分割できないものである。また、地球規模且つすべての国に対応を求められる性質のものである。ターゲットは、地球規模レベルの目標を踏まえつつ、各国の置かれた状況を念頭に、各国が定めたものとなる。また、各々の政府は、これら高い目標を掲げるグローバル・ターゲットを具体的な国家計画プロセスや政策、戦略に反映していくことが想定されている。持続可能な開発が経済、社会、環境分野の進行中のプロセスとリンクしていることを、よく踏まえておくことが重要である。」

グローバル・ターゲットとは、SDGsの169の各ターゲットの達成度を測定し、進捗状況を把握するために使用される具体的な数値やデータのこと。244のグローバル・ターゲット(指標)、他の指標と重複するものを除くと、232のグローバル・ターゲット(以下、「グローバル指標」という)が設けられている。

SDGsの構成をまとめると、17の目標(ゴール)、それを達成するために必要な具体的な169のターゲット(目標)、その達成度を測定する基準として、正味232のグローバル指標が設けられており、これらがセットになる。更に、SDGs169のターゲットの進捗を評価する指標が設けられている。各国が自身の進捗状況を定期的に報告し、国際機関がそれを集計・分析することで、進捗評価が行われる。進捗報告は各々の具体的な指標を用いて測定し、評価する一方で、課題や成功事例、政策提言などを発表し、SDGs達成に向けた国際的な協力と連携を促進につながっている。次にSDGs進捗評価の流れの概略を、みてみましょう。



日本は、2017年度と2021年度にSDGsの進捗評価をし、国連への報告として、「自発的国家レビュー(VNR)を提出。国連機関は各国からの評価報告書を集計・分析し、全体の進捗報告をまとめ、公示する。

直近では、2023年7月10日に「持続可能な開発目標(SDGs)報告書2023年版特別版」が国連から公示されている。これがSDGs2030アジェンダの2023年時点、全世界の進捗状況の報告書となっている。SDGs学習は、このような流れを前提にSDGs17の目標、その具体的なターゲット、その進捗測定基準となるグローバル指標をセットにし、併せて、現状の進捗状況を学習することで、より理解が深まる。次に、個別に学習していきましょう。

1. SDGs【目標1】:「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」

(1)＜目標1の7つのターゲット＞

- 1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- 1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。
- 1.3 各国において、最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。
- 1.4 2030年までに貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。
- 1.5 2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々強靱性(レジリエンス)を構築し、気候変動に関連する極端な気象事象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に関する曝露や脆弱性を軽減する。



- 1.a あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。
- 1.b 貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。

目標1「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」に対し、具体的に「何をやるか」という、具体的な「7つのターゲット」が、数字と英字で設定されている。そして、このターゲットの進捗状況を評価測定する基準として、「グローバル指標」が設けられている。次に、これを学習しましょう。

(2)＜「7つのターゲット」の進捗評価の測定基準とする「14のグローバル指標」＞

- 1.1.1 国際的な貧困ラインを下回って生活している人口の割合（性別、年齢、雇用形態、地理的ロケーション（都市/地方）別）
- 1.2.1 各国の貧困ラインを下回って生活している人口の割合（性別、年齢別）
- 1.2.2 各国の定義に基づき、あらゆる次元で貧困ラインを下回って生活している男性、女性及び子供の割合（全年齢）
- 1.3.1 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。
- 1.4.1 基礎的サービスにアクセスできる世界に住んでいる人口の割合
- 1.4.2(a) 土地に対し、法律上認められた書類により、安全な所有権を有している全成人の割合（性別、保有の種類別）
- 1.4.2(b) 土地の権利が安全であると認識している全成人の割合（性別、保有の種類別）
- 1.5.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数
- 1.5.2 グローバル GDP に関する災害による直接的経済損失
- 1.5.3 仙台防災枠組み 2015-2030 に沿った国家レベルの防災戦略を採択し実行している国の数（指標 11.b.1 及び 13.1.2 と同一指標）
- 1.5.4 国家防災戦略に沿った地方レベルの防災戦略を採択し実行している地方政府の割合（指標 11.b.2 及び 13.1.3 と同一指標）
- 1.a.1 貧困削減に焦点を当てた、全てのドナーからの政府開発援助（ODA）贈与合計（受益国の国民総所得に占める割合）
- 1.a.2 総政府支出額に占める、必要不可欠なサービス（教育、健康、及び社会的な保護）への政府支出総額の割合
- 1.b.1 貧困層のための公共社会支出

以上が、SDGs「目標1」の構成となっている。日本は、2016年5月に「SDGs推進本部」を設置し、この下に、2017年に第1回、2021年6月に第2回目の VNR（自発的國家レビュー）を決定し、国連に提出している。今年、2025年6月、4年ぶりに第3回目の VNR を決定し、公示している。この学習会での日本の進捗状況記載は、国連評価2023年基礎資料と揃え、2021年 VNR の進捗評価からピックアップする。

2. [2021年VNR「目標1」の進捗状況・政府評価]

「当該目標の直接的な指標はないが、「子供の貧困率」は、2014年に「子供の貧困対策大綱」が策定されたときは16.3%だったが、2019年国民生活基礎調査では、13.5%、生活保護の被保護者数は2015年3月に過去最高を記録したが、以降減少に転じ、2020年12月には約205.0万人。ピーク時から約12万人減少。新型コロナの影響は今後も注視する必要がある。

3. [国連:持続可能な開発目標(SDGs)報告書2023年版特別版・「目標1」の進捗評価報告]

目標1の進捗状況:世界では、脆弱な立場に置かれた人々の多くが、依然として社会的保護を受けられていない。国民の貧困水準を半減できる国は3分の1のみ、今の傾向が続けば、2030年までに5億7500万人が依然として極度の貧困の中で暮らすことになる。

さて、SDGs取組概要、目標1の具体的なターゲットと評価基準、その進捗状況報告の学習は終了です。